

親子でつくろっ!

コンテナの大きさ
栽培の難易度 (難 中 易)

ジャガイモ (ナス科)



大型・深型
または袋作り

ベランダ栽培のポイント

1. 植えつけ時は土を容器の半分量程度にし、生育に応じて増し土をして育てる。
2. 大きな芽を1~2本残して、ほかの芽はかき取る。
3. 芽かきのころと蕾が付き始めたころの2回、追肥と増し土をする。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月

■ 植えつけ期間 ■ 収穫期間

ベランダでイモ掘り?

適応性が強く土質を選ばないので、栽培しやすい野菜です。生育温度は20度前後と冷涼な気候を好みます。品種にはおなじみの『男爵』『メークイン』のほか、『キタアカリ』『アンデス赤』など新品种が次々とできているので、チャレンジしてみるのも楽しいものです。土から掘り出すワクワク感を味わってください。深めのコンテナや大きな袋を使って日当たりのよい場所で育て、乾いたらたっぷりと水やりします。無農薬でできますが、長雨が続き続いたときは疫病に注意してください。

スタート

植えつけ

根菜類のジャガイモは、土がたっぷりとする大きなコンテナや袋で育てましょう。ここでは袋作りの方法を解説します。増し土をしながら育てるので、はじめから土を容器いっぱいに入れず、半分くらいからスタートです。

1. 植え床を準備する

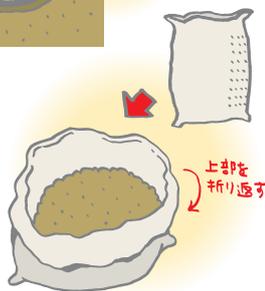
大きく丈夫な袋を準備し、土を半分くらい入れる。袋の上部は折り返しておき、必要に応じて伸ばしていく。



2. 種イモを植えつける

種イモは、芽のあるところを均等に分けるように一片30~40gにカットし、切り口を下にして袋の中央に埋め込む。周囲の土を寄せて、5~6cmの厚さに土をかぶせる。

手で軽く押さえて、たっぷり水やりする。土の量が多く移動がたいへんなので、キャスター付きの台にのせたり、はじめに決めた場所を動かさないほうがよい。



6週間後

芽かき・追肥・増し土

(1回め)

3週間ほどで発芽、6週間後には草丈10~15cmくらいになります。このまま複数の芽を伸ばしたままだと、小さなイモしかできないので、芽かきをします。

2. 追肥・増し土をする

折り返しておいた袋の端を少し伸ばし、あらかじめ土1リットルにつき1gの化成肥料を混ぜ込んでおいた用土を7~10cmくらい入れ、株の根元まで増し土をする。増し土をしないと、イモが日に当たって緑化するので注意。たっぷり水やりする。

1. 芽かきをする

草丈10~15cmくらいになったら、芽かきの適期。大きく元気のよい芽を1~2本残して、ほかのはさみで根元から切り取る。手で引き抜く方法もあるが、残す芽もいっしょに抜いてしまうことがあるので、はさみを使うほうが無難。

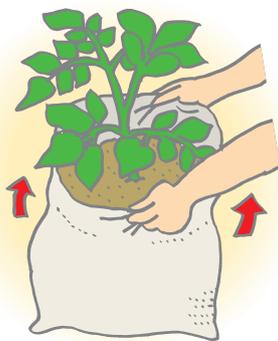


8~9週間後

追肥・増し土

(2回め)

蕾が付き始めたら、2回目の追肥、増し土をします。コンテナ栽培の場合は、増し土がイモのできを決める大きなポイントです。株元にたっぷり土を入れ、イモが生育する場所を確保します。



袋の折り返しを伸ばす。

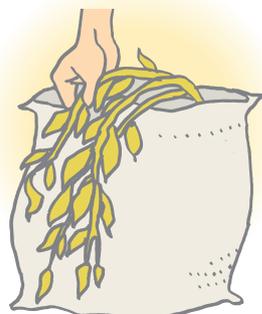


前回同様化成肥料を混ぜ込んでおいた用土を入れる。厚さ7~10cmくらいを目安に土を入れる。たっぷり水やりする。

13週間後

収穫

追肥、増し土は2回で、その後は放っておいてだいじょうぶ。花が終わって茎や葉が枯れてきたら、いよいよ待ちに待った収穫です。株元をしっかり持って引き抜きます。



茎や葉が黄変し、枯れてきたら掘り出す適期。株を持って引き抜く。株についてくるイモだけでなく、土中にもイモが残っていることがあるので、とり残しがないようにいねいに探る。